裁判へのご支援・ご協力を！
2017年06月16日　133号

生活保護制度を良くする会
ニュース

事務局　道生連
電話　011-736-1722
ﾌｧｯｸｽ　011-736-1688
ﾒｰﾙ　seihoyokusurukai@herb.ocn.ne.jp

新・人間裁判の第１１回口頭弁論での、伊藤勇人さん（５８才・札幌市北区）の陳述です。

私は、札幌市で生まれて小学校４年の時、親の都合で東京での生活を経て静岡県熱海市に移り暮らしていました。中学２年の時に母を病気で亡くし、病気で働くことが出かなかった父と共に当時札幌に居た私の兄弟の長男宅に引き取られる形になり、北海道に戻ってきました。兄弟とはいえ末っ子の私を高校まで上げてくれたことには、感謝の気持ちでいっぱいです。高校を卒業した私は千歳の陸上自衛隊に入隊しました。

21歳の時にいろんなことが重なって悩み、精神的に参ってしまい市内の精神病院に入院となりました。それでも自衛官として４年の契約期間があるうちに復職して満期で退職し、その後東京の警備会社に就職しました。しかし、あまりの忙しさと環境に耐えられず、ほんの数か月で退職になり、精神病の再発と共に以前入院した病院に再入院となってしまいました。ここからは、４年間という長い入院生活が続きました。病気自体は突発的なもので、状態が悪くてというよりは引き取り手もなく、退院するすべが見当たらないことでの長期入院でした。まだ20代の私にとっては、その生活には耐えられず自分から院長に相談して、札幌で住み込みの就職先を決め、何とか退院に漕ぎつけました。お陰で、20代の半分を精神病院で生活したことになります。

27歳からは建設会社に入社しました。とにかく忙しい会社で従業員30人程の小さな会社でしたが、入った当時は月の休みが２回しか取れないほどでした。人間関係も日を追うごとに良好になり給与もそれなりに上がっていき、生活も安定しつつあった頃、今の妻との出会いがありました。縁があって一緒になり子供にも恵まれました。しかし、私が34歳、娘がまだ３歳の時に精神病が再発し札幌市内の病院に入院、当然仕事も失いました。なぜこうもこの病気に侵されるのか、全く解りませんでした。病識というものがなく、退院してもまた違う病院に入院の繰り返しでした。

自宅療養中に妻がいろいろ走り回ってくれて、小規模作業所に通所するようになりました。自分と同じ病気を持ちながらも必死に生きている仲間に出会いました。

この頃の生活は妻に任せてひとり娘の面倒と作業所通いの毎日を過ごしており、仲間からの情報でいろいろ病気に関しての知識も付き、自分の病気は統合失調症で精神障害者として生きていくのだと言い聞かせて暮らすようになりました。

生活を維持するためにあらゆる制度を活用しました。就学援助、児童扶養手当、障害年金、最終的には娘の学資保険も解約して何とか生活してきましたが、娘が高校に入学する際、貯蓄も使い果たし最後のセイフテーネットと言われる生活保護を申請するに至りました。妻はずっと働いてくれていましたし、私もいつまでも作業所に通うだけではと思っていたので少しでも稼げればと仕事先を探しましたが、精神障害を開示しての就職先は簡単に見つかるものではありません。私が42歳の時にたまたま見た雑誌に清掃の仕事が載っていて、午前中の仕事で負担も少なく、続けられそうだったので病気のことは伏せて就きました。

妻と一緒にパートの仕事をして稼ぎ、足りない分を生活保護のお世話になるという生活が続きました。娘は私立高校に入学することになりましたが、奨学金制度の活用と生活保護の特別控除がされた額を授業料などに充てて、つらい思いをさせずに卒業させることが出来、お陰様で何とか専門学校まで通わせ、社会人として送り出せた時は、本当にこの国に生活保護という制度があったことに感謝しました。

あとは夫婦ふたり、少しは気持ちも楽に、お金は無くとも平穏に暮らせるであろうと思っていました。しかし、平成 25 年から３年連続で生活扶助が削減されました。それに加えてショックだったのが、就労控除と言われる特別控除の全廃でした。働きながら生活保護を受ける世帯にとって、働いた年収の１割が控除の対象になる制度で、私の世帯では年間 12 万円もの収入減となってしまいました。私の場合は昨年の８月、14 年半務めてきた清掃の仕事を体の不調が原因で退職してしまいましたが、妻はまだ頑張って働いています。

特別控除が無くなったことには憤りを感じています。さらに今では、住宅扶助、冬季加算、年末一時扶助の減額とどこまで追いつめられるのか、生活が成り立たなく成るのではないかと、不安でなりません。この国において憲法 25 条にある健康で文化的な最低限度の生活とはいったいどういうものでしょうか。

私のような障害者には生きる権利は無いのですか。社会保障費を削って国防費を増やすなんて、いつから日本は戦争をする国を目指すようになったのでしょうか。聞けば、まだまだ保護費の削減は続くそうです。

生活はかなり切り詰めています。冬で言えば、部屋の温度は今までは 20℃にしていましたが、現在は 13℃に設定し灯油代を節約しています。食事では、百円ショップで１個１００円のうどんや焼きそばなどが２個１００円になった時に買うなど、見切り品を中心にとにかく安いものを買うようにしています。とことん切り詰めないと、精神障害者として通う施設や作業所にも通うことができなくなってしまいます。

また昔から親しくしてきた友人から誘われてもあれこれの理由をつけて断わらなければならず、交流もできなくなり、悲しい思いで暮らしています。

国は私たちをどこまで追いつめれば気が済むのかと聞きたいです。私のような者にも生存権はあるはずです。

どうかお願いです。もうこれ以上の仕打ちは止めてください。最低限度の文化的な生活を返してください。これからのこの国の社会保障制度の充実を願って止みません。この訴えを裁判官の皆さんに汲んでもらえることをお願いして私の訴えとします。